



2009年6月29日

世田谷区長 熊本 哲之 様

社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 伊平 則夫
同 保存問題委員会 委員長 和田 昇三



世田谷区民会館を始めとする庁舎群及び外部空間の保存・再生に関する要望書

拝啓

時下益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

貴区におかれましては、日頃より建築文化の継承・発展に理解を示されていることに深く敬意を表します。又当協会の活動に格別のご理解を賜り、厚く感謝申し上げます。

さて、貴区におかれましては世田谷区庁舎の再整備の検討を始められた旨、聞き及んでおります。

ご高承のように、中央広場を囲むようにして建つ世田谷区民会館(1959)、第一庁舎(1961)及び第二庁舎(1969)は、建築家・前川國男(1905-86)の設計による建築です。前川は戦前フランスにおいてル・コルビュジエに師事し、戦後数々の公共建築を設計した日本を代表する建築家の一人です。世田谷区民会館・庁舎は、その前川の公共建築の原点とも言える建築群であり、空間構成や打放しコンクリートによる造型の探求といった建築文化の面において極めて重要な価値を有しています。

区民会館及び区庁舎(現第一庁舎)の設計競技において、前川は区民に開かれた広場を提案するとともに、区民会館のエントランスホールやロビーに透明なガラスを使い広場と一体化することで、新しい時代の公共建築像を提示しました。広場を挟んで対面する会館と庁舎はピロティにより接続され、区民は前庭からこのピロティをくぐって会館へ、庁舎へ、広場へと移動していきます。この広場との連続性は、第二庁舎では高度なコンクリート技術を駆使した正面玄関の大きな庇によって表現されました。

第二庁舎完成後も、貴区理解を得て前川は長年にわたり庁舎の維持管理や外部空間の整備に携わってきました。発注者と設計者の協働により育てられた世田谷区庁舎の空間や景観は、熟成された豊かさを獲得しております。特に、大木となったケヤキと調和した建築群や、前庭や広場の持つ人に優しいスケール感は、まさに「世田谷らしい」、地域にとってかけがいのない風景資産と言えるのではないのでしょうか。区の発展とともに成長してきたこの庁舎群は、区と区民の歴史そのものです。さらなる区政の充実に向け、半世紀にわたり使い続けてきた区民の愛着の賜物であるこの空間は活かすべきかけがえのないものであると考えます。

以上のことから、貴区におかれましては世田谷区庁舎の再整備にあたり、優れた文化的・景観的資産である世田谷区民会館・庁舎、及びそれらと一体に構成された外部空間を積極的に保存・活用されるようお願い申し上げます。なお、社団法人日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部、並びに同保存問題委員会は、上記実現のためできる限りの協力をさせていただき所存であることを申し添えます。

敬具